

新型コロナウイルス関連 アンケート

特定非営利活動法人兵庫県難聴者福祉協会
2020.12

アンケート調査概要

◆実施日程

令和2年10月から11月まで(約2か月)

◆調査対象

特定非営利活動法人兵庫県難聴者福祉協会
会員の難聴者・中途失聴者 109名

◆調査目的

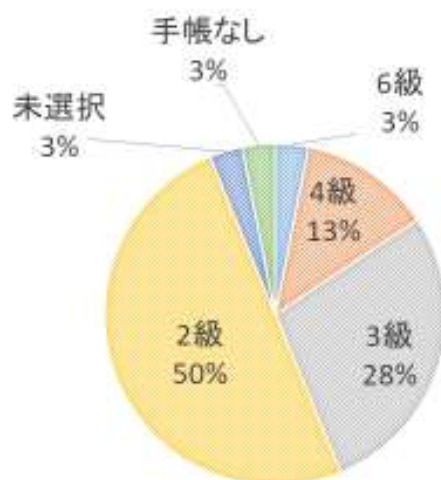
新型コロナウイルス感染拡大予防のための新しい生活様式において、聞こえにくい聞こえないことで受けている不便を明らかにすること。

アンケート結果概要

- ① 回答者32名
- ② 新型コロナウイルス感染防止のため、すべての人がマスクを着用している中で、読話が出来ない等、回答者の半数以上がコミュニケーションに支障を感じている。
- ③ ニュースに字幕・手話がつかず、情報取得ができずに困っている。
- ④ コロナ感染の症状が出たとしても、医療機関が分からない、FAXやメールなどの連絡先が分からないため、連絡できない可能性がある会員が一定数いる。

回答者の基本情報①

・聴覚障害等級



回答者の基本情報②

・コミュニケーション手段

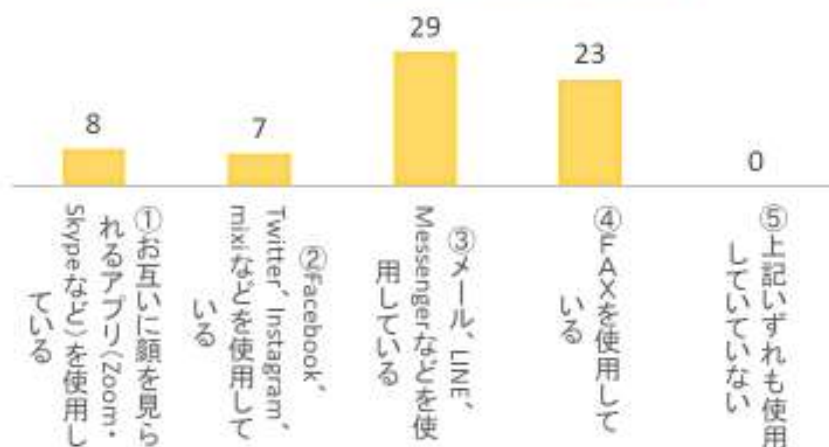
※複数回答



回答者の基本情報③

・コミュニケーション機器・アプリ等の使用状況

メール・LINEを使用している人が最も多いが、そのうち、顔見られるアプリや大勢と繋がるアプリを使用している人は半数である。また、自由記述からは、英語の表記が分からないことや加齢で機械類が苦手になり、FAXを頼りにしている人が多いことが分かった。



※複数回答

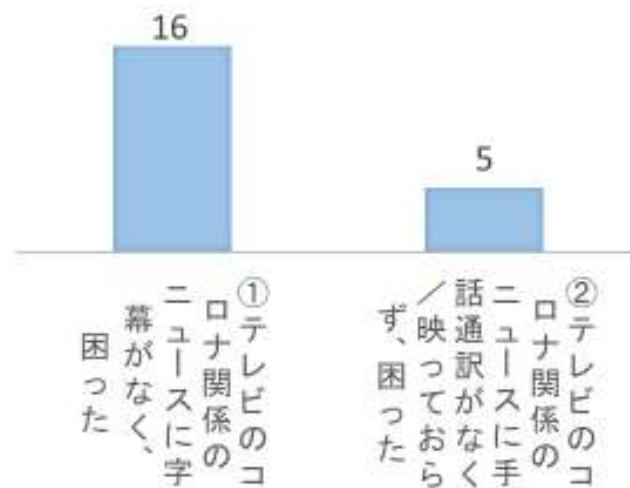
①コミュニケーションで困っていること

マスク越しではコミュニケーションが難しく、十分にコミュニケーションが取れていない。また、外出が減り人と会うことが減ったとの回答が多い。赤枠については、聴覚障害者のコミュニケーションについて更なる啓発が必要と考えられる。



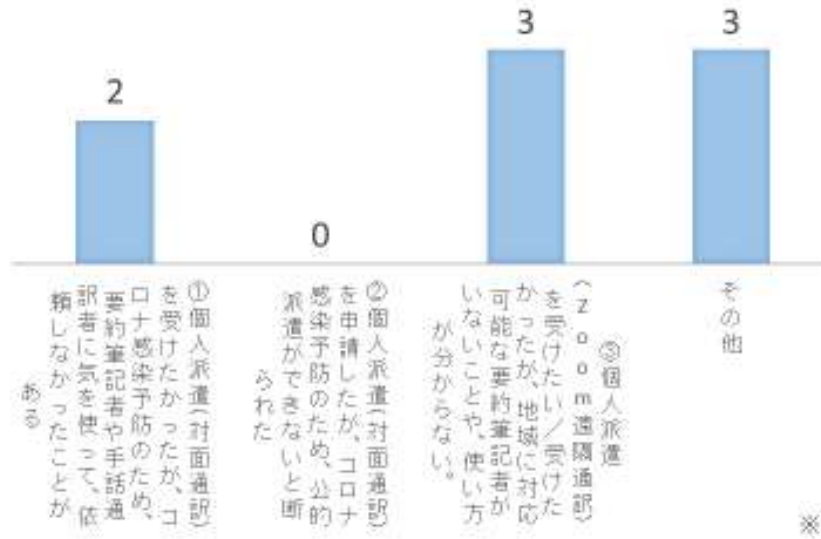
②情報取得で困っていること

テレビやスマホのニュースに字幕・手話などがなく困っている人が多い。地元の兵庫県のニュースにも、字幕・手話通訳がない。字幕が付いていても内容がシンプルで意味が分からないという回答もあった。



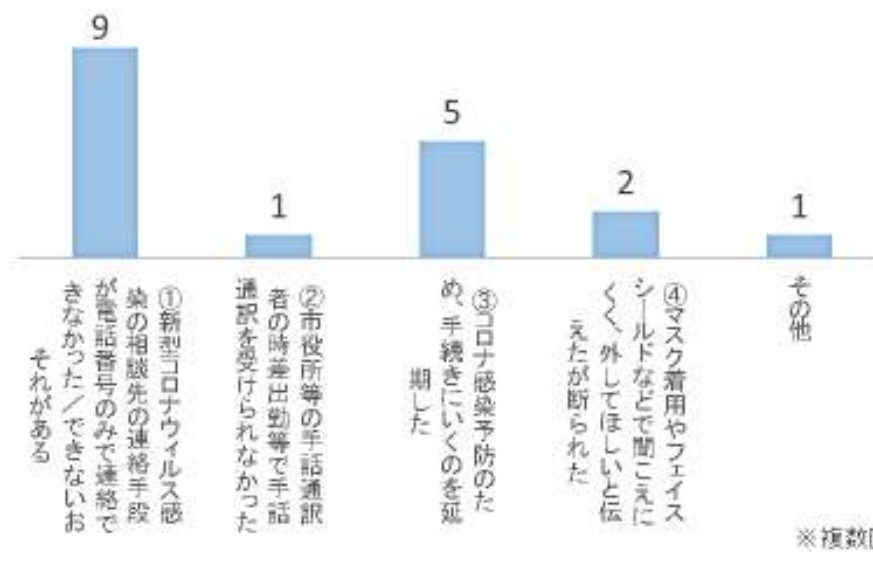
③情報保障で困っていること

外出自粛もあり派遣依頼する機会自体が減っていることもあるが、自由記述には気を遣って派遣依頼しなかったという回答もみられる。コロナ禍でも病院診察には派遣を受けつけているが、一方で新たに始まった遠隔要約筆記は検討中であったり、対応可能な要約筆記者がいないことなどが明らかになった。



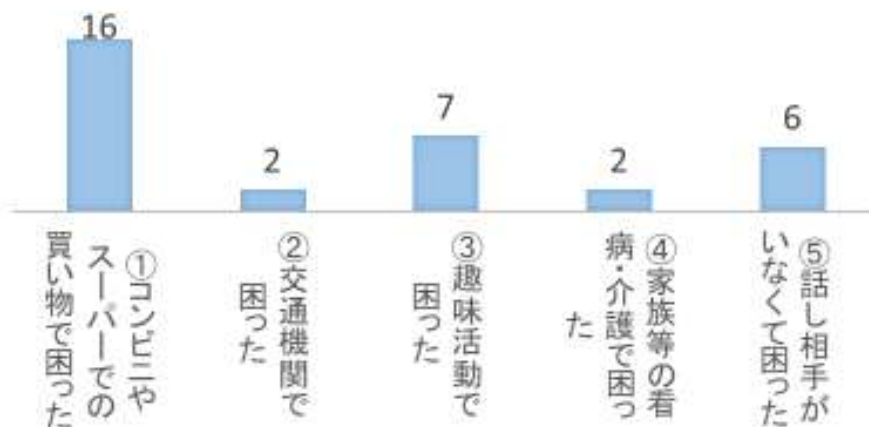
④行政関係で困っていること

当事者団体の活動自粛等で行政窓口に行くことがなく、回答数が少ないが、連絡手段が電話番号のみで連絡できないという回答が多かった。スマートフォンを持っていない高齢の難聴者のことも考え、FAX番号の記載が必要である。



⑤日常生活で困っていること

買い物で困っている理由として、店員がマスクを着用しているため、コミュニケーションが取れないという回答が多い。中には、マスクで聞き取りにくく、人と会話するのが億劫になったという回答もある。対策としては、耳マークカードをみせるなどを工夫している。耳マークの普及と、社会啓発が必要と考えられる。



※複数回答

⑥労働関係で困っていること

当会の会員に就労者少なく、回答数が少ない。

自由記述からは、情報保障の整備が後回しにされ十分な業務ができなかったことや、職場の机に不透明な仕切りが置かれて周囲の状況が分からなくなったことが分かった。また、オンラインでは読話ができず、意思疎通の低下を感じ、通訳を必要としている。会議の字幕が理解できなくても進んでしまうことを懸念したり、研修資料配布のみでは分かりにくさを感じたりしている。



※複数回答

⑦医療関係で困っていること

コロナ感染に関して、連絡する医療機関が不明なことや、連絡手段がないという回答があり、FAX番号を知りたいという自由記述もあった。自由記述には、コロナ感染の不安やマスク着用で聞き取りが悪いため通院を遅らせたら、薬も切れ症状が悪化した、という重大な回答もあった。筆談対応のある病院もあれば、対応しない病院もみられる。手話通訳が常駐している病院への通院は困らないという好事例もみられた。

